

■・BASF

We create chemistry

新規殺虫剤

エフィコン[®]SL

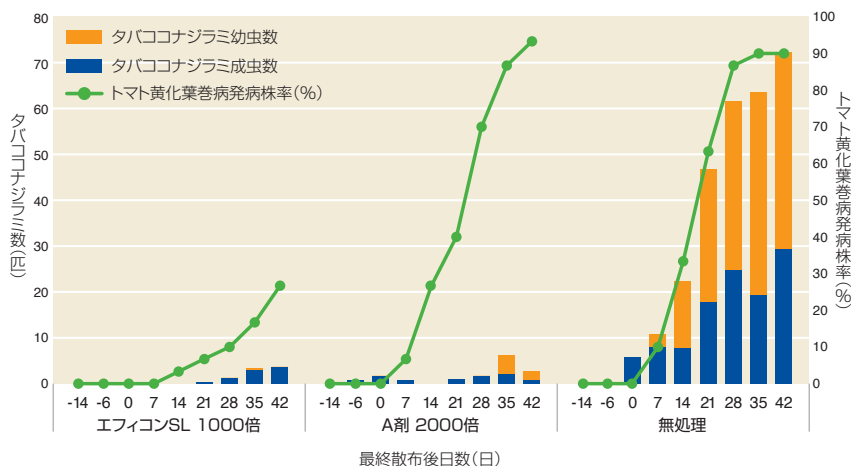
Powered by Axalion[®] Active

落ちる害虫、 活きる益虫。

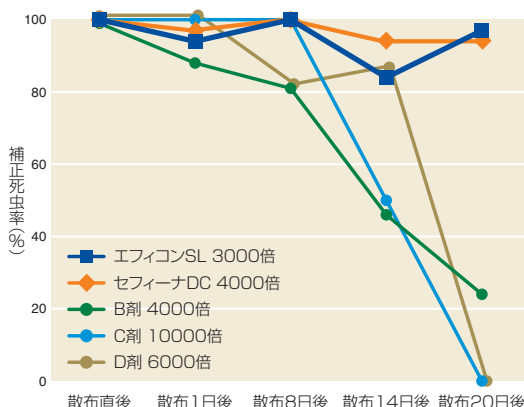


“ブレイキン効果[※]”による、
抵抗性害虫への優れた効果。
即効的な吸汁阻害によるウイルス媒介抑制。
有益昆虫に影響が少ない事が確認されており、
IPM（総合的病害虫管理）に有効。

※エフィコン[®]SLの有効成分アクサリオン[®]が害虫の弦音器官を沈黙させ、速やかに吸汁や定位といった行動を阻害する効果。
結果として、害虫が植物から落下するといった症状を引き起こす。

**発生初期に散布することで、
高いウイルス媒介抑制効果を発揮****■タバコナジラミに対する防除効果・トマト黄化葉巻病発病抑制効果**

A剤と比較してタバコナジラミの虫数はほぼ同等であったにもかかわらず、
エフィコン[®]SLは優れたウイルス媒介抑制効果を示した。

**優れた移行性により、
作物を長期間保護****■ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する防除効果**

エフィコン[®]SLはセフィーナ[®]DC同様に散布後約3週間まで
高い死虫率で推移し、対照剤に比べ優れた残効性を示した。

■適用病害虫名と使用方法

※1:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ ※2:ペーパーポット1冊当り1ℓ (3ℓ/㎡)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジプロピリダズを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000～2000倍	200～700ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なしもも	カイガラムシ類	1000倍		収穫前日まで			
おうとう	オウトウショウジョウバエ			収穫7日前まで			
ぶどう	チャノキイロアザミウマ						
キャベツ	アブラムシ類	250倍	※1	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
ブロッコリー	アザミウマ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		1000倍					
はくさい	アブラムシ類	250倍	※1	定植当日	1回	灌注	
		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
レタス類		250倍	※1	定植3日前～定植当日	1回	灌注	
		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
トマト	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類、アザミウマ類 トマトサビダニ	1000倍					
なす	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
	コナジラミ類、アザミウマ類	1000倍					
きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
ピーマン	コナジラミ類	1000倍					
	すいか メロン	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	
コナジラミ類		1000倍					
いちご		アブラムシ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	
	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
		アザミウマ類					
てんさい	アブラムシ類	100倍	※2	定植当日	1回	灌注	
		2000～3000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
ばれいしょ		100倍	20ℓ/10a	植付時	1回	植溝内土壌散布	
		2000～3000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	
だいず	2000～4000倍						
茶	チャノミドリヒメヨコバイ	500～1000倍	200～400ℓ/10a	摘採14日前まで	2回以内	散布	
	チャノキイロアザミウマ						

△効果・被害等の注意事項

●使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。●散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。●軟弱な苗、または高温条件下で灌注すると被害を生じるおそれがあるので注意してください。●野菜類への灌注処理後、ポット又はトレイのまま放置すると、葉縁部の壊死やそれに伴う葉の変形を生じるおそれがあるため、灌注処理後はできるだけ速やかに定植してください。●ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用をさけてください。●茎葉散布は、害虫の発生初期に行い、とくに発生が多くなつてからのアザミウマ

類、カイガラムシ類への散布は効果が劣るので、発生状況をよく確認の上、使用してください。●りんごの品種「秋映」では、花弁や葉に薬害(褐変)が生じるので使用しないでください。また、飛散(ドリフト)等により散布液がからないように十分注意してください。●キャベツの育苗期に灌注する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、品種「初秋」に使用すると、葉の奇形や生育遅延を生じる場合があるので注意してください。●使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の

責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けてください。●過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。●空容器等はほ場に放置せず環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

△安全使用上の注意事項

保管…火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>



詳細やSDSはWEBで
ご覧いただけます。

このチラシの記載内容は2026年1月現在のものです。